

ジックシール U-300 工法

農業用水路目地補修剤
1 液型ウレタン樹脂コーキング材

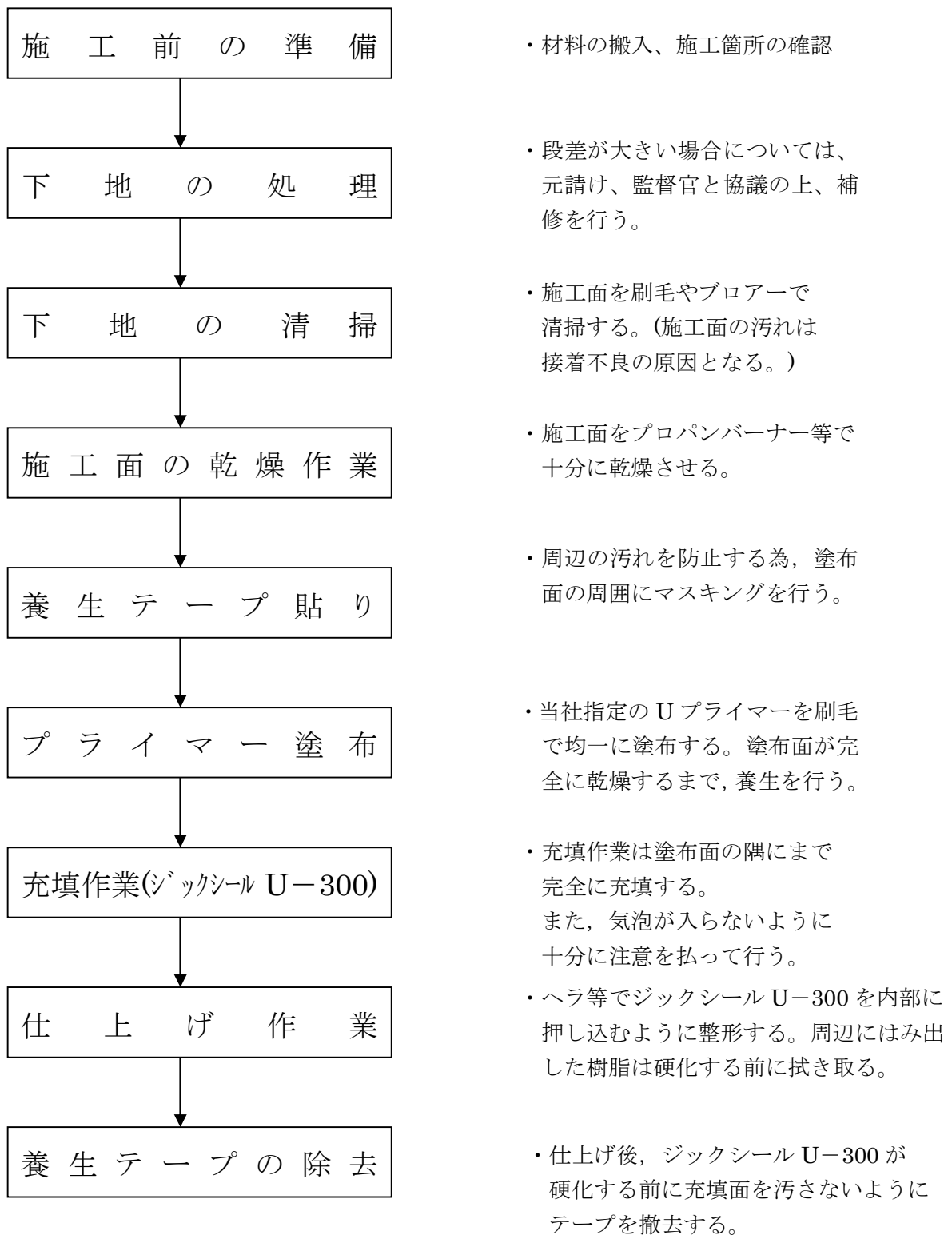
施工要領書

日本ジッコウ株式会社

目 次

1. フローチャート	—— 3.ページ
2. 使用材料及び器具一覧	—— 4 ページ
8. 施 工 方 法	—— 5.6 ページ
9. 注 意 事 項	—— 7 ページ

1. フローチャート



2. 使用材料及び器具一覧

(1) 使用樹脂

名称	種類	特性
ジックシール U-300	農水用水路目地補修材	1液型ウレタン樹脂
Uプライマー	溶剤型プライマー	1液型ウレタン樹脂プライマー

(2) 使用上の注意点

- ・施工環境が湿度 5℃～35℃の温度内で施工して下さい。
- ・湿度 85%以上の環境では施工および養生を行わないで下さい。
- ・温度 5℃以下での養生を行わないで下さい。水分および振動の影響が無いように養生を行って下さい。
- ・プライマーは有機溶剤を含んでいる為、塗布する際は十分な換気を行って下さい。
- ・開封した樹脂は出来るだけ使い切り、再び使用しないで下さい。

(3) 使用機材及び備品

名称	数量	備考
<使用機械> ブロワー ディスクグラインダー ダイヤモンドカッター 発電機	1台 1台 1台 1台	目地清掃用 塗布面ケレン用 不良部の切除用 現場に電源が無い時
<使用器具> ワイヤブラシ 刷毛 カートリッジガン カッター ならしバッカー ヘラ	2～3本 2～3本 2～3本 2～3本 2～3本 2～3本	目地清掃用 プライマー塗布用・掃除用 仕上げ用 仕上げ用
<備品> 洗浄溶剤 ウェス 布テープ バックアップ材 ペール缶	必要量 必要量 必要量 必要量 1～2缶	施工道具の洗浄用 マスキングテープ 二面接着確保用 洗浄など

8. 施工方法

(1) 施工前の準備

水路目地補修工の前工程を通じて所定の性能が得られるように専門技術者を常駐させ環境および施工の計画・管理を行う。

① 作業環境の安全対策

施工時の作業内容を十分留意し、安全と健康上の観点から各種法規および規制に従って作業環境を計画・管理する。

管理項目

- ・労働安全衛生法および関連法規（健康管理）
- ・消防法および関連法規（防火管理）

② 施工環境対策

ウレタン樹脂の品質は施工時の作業環境に左右されることが多い為、気象条件・環境条件に十分に注意し、施工に適した温度・湿度等の作業環境条件を計画・管理する。

管理項目

- ・コンクリート躯体表面水分含有率 5%未満（ケット社製HI-520 コンクリートモードで測定）
- ・施工環境
 - 温度 5～35℃以内
 - 湿度 85%以下で施工する躯体表面に水滴・結露が無いこと
 - 湿っている場合はプロパンバーナー等で乾燥させる。
- ・施工場所の降雨・降雪等による汚損防止対策

(2) 下地処理

水路目地補修工の前にコンクリート躯体の目視検査を行い、欠損部・不良箇所・異常部などが見つかった場合は現場責任者と協議の上、適切に処理を行う。

(漏水・段差・目違い・豆板・コールドジョイント・打ち継ぎ部・目地の割れ・クラックなど)

また、コンクリート目地部分の接着不良となる異物を除去する。

(油・汚れ・レイタンス・コケ・ゴミなど)

(3) バックアップ材の挿入

二面接着の確保・充填深さの調整の為、目地幅より 1～2mm 広いバックアップ材(ポリエチレンスポンジ)を目地に挿入する。目地が浅い場合は、養生テープを目地底部に貼って二面接着を確保する。

(4) マスキングテープの貼付

美粧性の確保・目地周辺部の汚れ防止の為、目地に養生を行う。仕上げ後、養生を撤去する際にテープの接着剤が残らない良質のテープを使用する。

(5)プライマー塗布

当社指定の U プライマーを刷毛等で均一に塗布し完全に表面が乾燥するまで養生を行う。また、接着面が粗面の場合は出来るだけ平滑に塗布する。

(6)充填作業

充填作業はコーナーの各部分に隙間が出来ないように完全に充填する。また、気泡が充填剤の中に入らないように注意を払い、1度使用した充填剤は再利用を避ける。

(7)仕上げ

充填作業後、ヘラ・スポンジゴテ等で充填剤を押し込むように仕上げる。ヘラ・スポンジゴテを石けん水で濡らすと、より美しく仕上げる事が出来る。また、周辺にはみ出した充填剤は硬化する前に拭き取る。

(8)マスキングテープの除去

仕上げ後、充填剤が硬化する前に、充填面を汚さないようにマスキングテープを除去する。

9. 注意事項

安全

- ・ 取扱い中に皮フに付着したり、飲み込んだりするとかぶれや中毒等の健康に障害を起こす恐れのある物質を有しておりますので、取扱いには注意事項を守って下さい。
- ・ 取扱い中に皮膚に触れないよう必要に応じ、保護手袋、ゴーグル、保護マスク等を着用してください。
- ・ 取扱い作業を開始する前に、腕や手などに保護クリームを塗って下さい。
- ・ 皮フに付着した場合、直ちに拭き取り、石鹼を使用し、水で十分に洗って下さい。
(痛みがあったり、外観に変化があったら速やかに医師の診断を受けてください。)
- ・ 眼に入ったら直ぐに、医師の処置を受けて下さい。
- ・ 密閉空間で使用する場合、作業場所の換気を十分に行ってください。
- ・ 火気のある場所では使用しないで下さい。